

9. 農林水産問題について



女性農業者の活躍促進について伺います。

近年、人口減少社会に突入する中、本県でも人口減少の波を余儀なく影響を受けます。そのような中で、県内それぞれの地域が活力を失わず、しっかりと成長し、そして発展し続けていかなければなりません。そのためにも、あらゆる分野で、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を実現していくことが重要です。

男女共同参画社会の実現については、女性が農業就業人口の約半分を占める重要な担い手である農業においてこそ、取り組むべき課題であり、今後本県の農業・農村が持続的に発展できるかどうかは、女性農業者の活躍にかかっていると言っても過言ではありません。

実際に、国の調査では、女性農業者が農業経営に関与している経営体の方が、収益力が向上するとの報告がなされており、経営面においても女性農業者の活躍が期待されております。

国は日本農業法人協会と連携し、2015年度から2017年度の3か年間、女性の活躍推進に取り組み、経営上の成果を上げている農業経営体を「農業の未来をつくる女性活躍経営体100選WAP（ワップ）100」として選定、表彰しており、県内でも四つの経営体が表彰されたと聞き及んでおります。

久留米市の「カラーリングファーム」では、ラディッシュいわゆる二十日大根を生産から販売へ、そして加工の全てに携わっています。特筆されるのは、取締役を筆頭に、従業員の多くは女性です。ラディッシュの商品名も女性の視点を活かした、かわいらしいネーミングで、「さくらんぼ大根」と命名され、県内はもとより関東域まで出荷され、市場の評価も好評です。

また、生産の段階で出荷できなかったものを有効に活用するため、「さくらんぼ大根のやさしい酢漬け」を商品化し、県の6次化コンクールで最高位の知事賞を獲得。JAの6次産業化商品コンテストでも優秀賞を受賞するなど、消費者から高い評価を得ていると聞いております。

さらに、経営面では、社会保険や給与体系、休日制度はもとより、女性が働きやすい職場環境の整備、従業員の状況に応じたフレックスタイムなどが導入されており、女性の細やかな視点を活かした経営手腕には、同じ女性として、誇らしく思います。

そこで知事にお尋ねします。農業分野で活躍する女性を増やしていくためには、女性が活躍する姿を、多くの方々に知っていただき、目標としていただくことが重要であると考えますが、県ではどのような取組みを行なわれているのかお答え下さい。

また、県が策定した「農林水産振興基本計画」では、「女性農林漁業者の能力発揮と社会参画の促進」をすすめるとされていますが、女性農業者が活躍するための課題をどうとらえ、その克服のためにどのように取組まれていくのか、お聞かせください。

【知事の答弁】

県内には、自ら生産した卵を使ったプリンの開発・販売や、農家レストランや観光農園の経営などで活躍している女性農業者がいる。

県では、このような方々の取組みをまとめた事例集を作成し、新たな展開を考えている女性農業者や就農セミナーの参加者に広く配布し、経営の多角化や就農へのきっかけにつなげている。

さらに、農業者や農業団体が参加する「ふくおか女性農業者の大活躍大会」では、先進的な女性農業経営者の講演と女性農業者が開発した商品の試食・販売を実施している。

女性農業者の活躍を進めるためには、女性農業者の経営参画や起業の促進が重要である。

このため、県では、女性の発想や視点を活かした経営ビジョンの策定を支援するとともに、中小企業診断士やフードコーディネーターからなる専門家チームを派遣し、経営の多角化や販路拡大などの個々の課題解決を図っている。

また、起業に意欲的な女性農業者に対して、商品づくりや商習慣を学ぶ「女性起業家育成塾」を開催している。この中で、県が認定した「女性農村アドバイザー」が講師となり、自ら所有する加工施設において、商品開発の工夫や機械の選定など経験を活かした助言を行う講座も行っている。

さらに、安定した商品製造のため、食品乾燥機やオーブンなど業務用機器の整備を支援している。

さらに、今年度から新たに、積極的に経営に関わる女性農業者を対象に、経営コンサルタント、社会保険労務士、先進的な女性経営者を講師として、雇用管理、財務管理などを体系的に学ぶ「農業女子のための経営発展塾」を開催している。

県としては、今後とも、こうした取組みを通じ、女性農業者の活躍を推進していく。